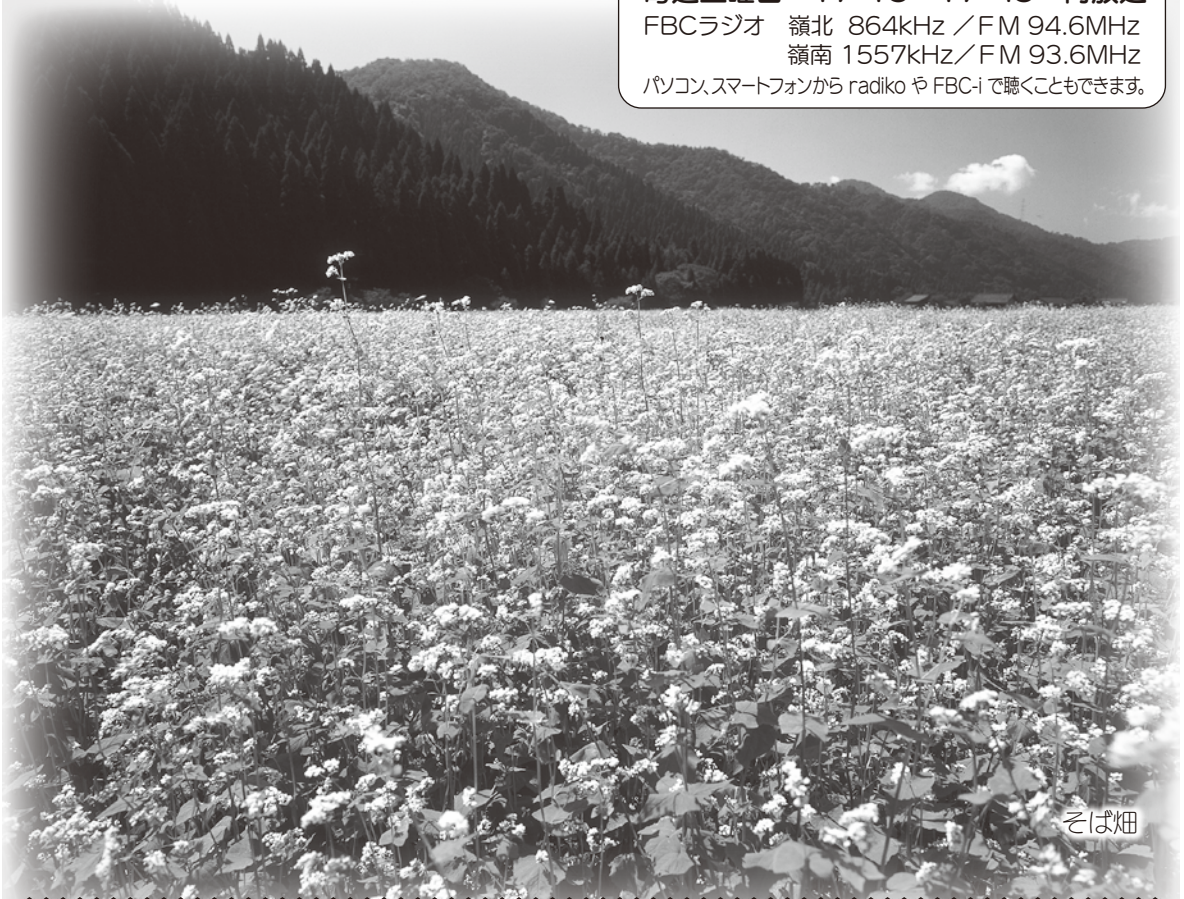


いきいきライフ

ラジオ講座テキスト

毎週日曜日 6:30~ 7:00 放送
 毎週土曜日 17:15~17:45 再放送
 FBCラジオ 嶺北 864kHz / FM 94.6MHz
 嶺南 1557kHz / FM 93.6MHz
 パソコン・スマートフォンから radiko や FBC-i で聴くこともできます。



そば畑

令和四年十月

もくじ

学び強化月間 シリーズ⑥
 暮らしにかかわる近未来に目を向けてみよう

- 十月二日放送 (第二十七回)
 気候変動から気候「危機」へ
 私たちの住む地球はこうなっていくのか…
 株式会社ウエザーニューズ
 気象予報士 吉良 真由子
- 十月九日放送 (第二十八回)
 米から考える
 日本の暮らしとSDGs ……
 御食国若狭おばま食文化館
 学芸員 一矢 典子
- 十月十六日放送 (第二十九回)
 工業技術センターの技術が暮らしを変えろ
 福井県工業技術センターの研究取り組みについて…
 福井県工業技術センター
 所長 後藤 基浩
- 十月二十三日放送 (第三十回)
 ボランティアで町おこし活動…
 NPO法人細呂木地区創成会
 代表理事・会長 酒井 敏雄
- 十月三十日放送 (第三十一回)
 世界の幸せ調査結果から見えてくる
 地域づくりのポイント…
 福井県立大学 地域経済研究所
 准教授 高野 翔
- 感想文のコーナー…
- 文芸欄 ……

16

13

翔

11

9

6

6

子

4

子

2

■十月二日放送（第二十七回）

気候変動から気候「危機」へ

私たちの住む地球はどうなっていくのか

株式会社ウエザーニューズ
気象予報士

吉良 真由子

〈気候変動がもたらす影響〉

今年是全国各地で統計開始以来、もっとも早い梅雨明けとなりました。暑さも異常で、「猛暑日」と言われる35℃以上の気温が当たり前になってきています。雨も極端化してきており、短時間に集中した雨をもたらす「ゲリラ豪雨」や激しい雨を降らせる積乱雲が連続して発生し線状に並ぶ「線状降水帯」によって毎年のように浸水害や河川氾濫、土砂災害などの被害が発生しています。実際に、全国的に雨の量が増えていることは気象庁の観測データからもわかっています。



日本で大雨が増えている要因は「地球温暖化」であると考えられています。地球温暖化が進むと、大気中に含まれる水蒸気の量が増加します。大気中の水蒸気の量が増えることで、雲か

ら降る雨の量も同様に増えることになるのです。福井（福井市）でも年平均気温がこの100年で約1.6℃上がっており、21世紀末には最大で約4.4℃も上昇すると言われてい

ます。
このような長期的な気温の変化や気象現象の変化のことを「気候変動」と言います。気候変動の影響は日本だけでなく世界各地で顕著に現れており、記憶にも新しい今年の7月のヨーロッパの猛烈な熱波による記録的な猛暑（ポルトガルで47度を記録）や、度重なる豪雨、台風などが多くの災害をもたらし、人々の生活、社会、経済に多大な被害を与えています。今後、地球温暖化の進行に伴い、このような猛暑や豪雨のリスクは更に高まることが予測されています。

気候変動の影響は災害の増加だけではありません。地球温暖化が進むと、蚊が活発に活動する期間が長くなる、桜の開花時期がどんどん早くなる（遂には開花しない地域も）、秋刀魚の漁獲量が減る、りんごの栽培適地が減るなど日常生活でも様々な影響が出てくると言われています。

〈気候変動の要因〉

私たちの住む地球では、現在、記録が残る中で最も早いペースで温暖化が進んでいます。その要因は太陽活動や火山の噴火などの「自然現象」と、温室効果ガス排出や森林伐採などの「人間活動」によるものがありますが、産業革

命以降は産業の発展や人口増加などが相まって、主に人間活動が大きな割合を占めています。特に温室効果ガスの排出量の増加は顕著なもので、温室効果ガスの中で最も地球温暖化に影響する二酸化炭素の大気中の濃度は産業革命前から比べて約1.5倍にまで増えています。

現在、地球の平均気温は約14℃に保たれています。これは、太陽から地球に降り注ぐ光によって、地球の表面が温められているためです。温められた熱の一部は、温室効果ガスが逃がさないようにしています（このガスがないと、地球はマイナス19℃の寒い星になります）。そのため、温室効果ガス自体は私たちが生きていくために必要不可欠な存在なのです。しかしこの温室効果ガスが増えすぎて、太陽からの熱が地球外に逃げにくくなったために、危険なペースでどんどん気温が上昇してしまっています。

〈気候変動を抑えるために私たちができること〉

地球上に存在する温室効果ガスの中で最も大きな割合を占めているのが二酸化炭素です。二酸化炭素はものが燃えるときに発生しますので、火力発電や車や飛行機に使われる化石燃料、ゴミの焼却など、燃やせば燃やすほど二酸化炭素が増えて、地球温暖化を加速させます。

気候変動を完全に止めることは難しいですが、変動のスピードは私たちひとりひとりの行動で抑えることができます。エコな生活を心がけ、温暖化の進行を「緩和」するこ

とが重要です。さらに、気候変動が起こることを想定して、予め対策を取っておく「適応」もまた必要とされています。例えば、洪水や土砂災害の被害に遭いやすそうな場所に家を建てない、などです。

個人だけでなく、企業も対策をしていかなければなりません。気候変動に対する「緩和」や「適応」について取り組んでいる企業こそが、事業継続性が高いとみなされ、投資家からの評価を得る時代になっています。私たちができることは個々人の努力ベースだけではなく、生活の基盤である仕事の中にもあるはずで、それを考えていくことが、次の一歩に繋がります。

現在私たちは気候「危機」に直面していることを改めて認識し、未来の人たちが安心して過ごせる世界を目指していきましょう。

講師略歴……吉良 真由子（きら まゆこ）

東京都生まれ、千葉県船橋市育ち。筑波大学大学院生命環境科学研究科修了。主に気候変動を研究する。

株式会社ウエザーニューズ入社後は鉄道・道路管理者向けの気象予測業務に従事。2022年、同社の気候変動事業プロジェクト立ち上げとともに同プロジェクトへ異動。プロジェクトは2022年度から気候テック事業部となり、現在に至る。

■十月九日放送（第二十八回）

米から考える日本の暮らしとSDGs

御食国若狭おはま食文化館

学芸員

一矢典子

●米から持続可能な社会を考えよう

私たちは、地球温暖化をはじめとする多くの環境問題をかかえています。また、世界に目を向けると、飢餓や貧困で苦しむ人々が多くいます。自分だけのことを考えるのではなく、すべての人々が環境を守りながら豊かな暮らしができるための努力が求められています。

では、何からはじめればよいのでしょうか？「SDGs」など、耳にはするものの、どこか人ごとのように感じていませんか。そこで、身近な食べ物である「米」を通して、未来の世界につなげるためにできることを紹介します。



●SDGsとは

SDGsとは、2015年に国連で示された「持続可能な開発目標」です。「誰一人取り残さない」という理念のもと、17

の目標をあげ、2030年までに達成することを目指しています。例えば、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「気候変動に具体的な対策を」などの目標があります。

●食料問題と米

世界では、9人に1人が飢えに苦しんでいます。ところが、世界で生産されている食べ物の約3分の1が食べずに捨てられています。食べることができずに捨てられる食べ物のことを「食品ロス」と呼び、日本では、国民1人あたり毎日、約茶碗1杯分の食料を捨てています。

こうして食料を廃棄する一方で、日本は食料の多くを輸入に頼っています。米は、そのほとんどを国内で生産しており、日本の食料問題や農業を考える上で重要な作物です。かつて、「稲は捨てる場所がない」と言って、藁や糠を暮らしの中で利用し、米一粒をも大切に食べていました。食べ物を無駄にしないこと、現在の私たちも工夫しながら取り入れていきたいものです。

●米と食生活の変化

近年、食生活は大きく変化し、米の消費量は減っています。昭和37年（1962）、1人が1日あたり約茶碗5杯の米を食べていましたが、令和2年（2020）は茶碗2杯と消費量は半分以下に減っています。このため、米が余り、価格の低下などにより、米を作る人が減っています。

また、食料のうち国内でどのぐらいまかなえているかを示す割合のことを食料自給率と言います。昭和40年（1965）は、食料自給率はカロリーベースで73%ありましたが、令和3年（2021）には38%と、海外の国々と比べても大変低い数値にあります。

もし、海外からの輸入が止まると、現在の食生活をおくることが難しくなります。また、生産地から食卓までの食料の輸送距離のことをフードマイルージと言い、海外から輸入された食料は、フードマイルージが大きく、日本に運ぶときに多くの二酸化炭素を排出します。

地元で作られた米を食べることで、環境への負荷を減らすことができるほか、地元の農業の活性化にもつながります。

●おわりに

私たちの暮らしの中には、より良い未来につなげるためにできることがたくさんあります。かつては、食べ残しをしない、地元でとれた食材を食べることなどは、当然のように行われていたことです。

先人たちの知恵を学びつつ、現在に合った工夫や技術を活用し、楽しみながらできることを積み重ねていきたいですね。

御食国若狭おばま食文化館では、2022年3月に新規常設展示「米から考える日本のくらしとSDGs」を設置しました。

※見学無料



食文化館の常設展示



福井県特別栽培農産物の認証マーク



バイオマスマーク

講師略歴……一矢 典子（いちや のりこ）

神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻前期博士課程修了。専門は民俗学。

御食国若狭おばま食文化館で学芸員として食に関する展示や伝統行事と食の調査などに携わる。

■十月十六日放送(第二十九回)

工業技術センターの技術が暮らしを変える
 ～福井県工業技術センターの研究取り組みについて～

福井県工業技術センター
 所長 後藤基浩

福井県工業技術センターは、明治35年に繊維系の工業試験場として設立された、わが国でもっとも古い公設試験研究機関です。繊維や眼鏡等の製造業を中心に様々な県内産業を技術面から支えることが役割であり、技術相談や依頼試験などを受ける「技術支援」、新しい技術を開発する「研究開発」、開発した技術を企業が活用する「技術移転」が活動の3本柱です。

一方、社会の課題は、デジタル技術の進化に対応したシステムの変革、労働力不足や働き方改革、2050年に向けたカーボンニュートラルや再生エネルギーの活用など



日々変化しています。そのような中で、県は令和2年に20年先を見据えた「福井県長期ビジョン」をつくり、「とんがりっく、ふくい」を合言葉に、尖った技術を伸ばすことによりこれらの

社会課題を解決できる新たな産業の創出を目指しています。これは1つの機関だけで実現することは難しく、企業や大学・高専、金融機関など他機関との連携が不可欠となっています。そこで県は産学官金が連携する「ふくいオープンイノベーション推進機構(FOPP)」を立ち上げ、当センターが事務局として多くの技術開発プロジェクトを推進し、事業化までを支援しています。

現在、FOPPでは、成長が見込める「宇宙」、「炭素繊維」、「ヘルスケア」、「AI」、「IoT」、「ロボット」、「エネルギー関連」の5分野を重点に支援しています。この5分野を中心に、当センターがどのような研究開発をしているのか、それにより県民の皆様の暮らしがどう変わるのかについて紹介します。

宇宙分野では、宇宙産業の拠点化を目指しており、令和3年3月に福井県民衛星「すいせん」の打ち上げに成功しました。当センターでは、超小型人工衛星の開発に必要な試験設備を整備し、拠点化を推進してきました。現在、試験施設としては、日本の3大拠点の一つとして認知されるまでになりました。その結果、JAXAや県外の宇宙ベンチャー企業など多くの機関が利用するようになり、宇宙分野へ進出する県内企業も増えてきました。また、超小型人工衛星が撮影した画像を活用する研究も進んでおり、災害の予測や農作物の生育状況・品質の管理などに展開して、安全な暮らし・おいしい農作物の収穫を実現します。

炭素繊維分野は、繊維産業の新たな展開を目指して、20年以上前から当センターが中心となり取り組み、繊維を広げる「開繊技術」を独自に開発しました。この技術を活用して県内企業が製造した炭素繊維シートは、エアバスの航空機エンジン部材に採用されました。炭素繊維は金属に比べて非常に強く強い材料です。自動車や航空機では、部材を金属から炭素繊維に置き換えることで軽量化が進み、燃費向上につながります。将来、空飛ぶクルマや電気自動車にも県内企業の素材がたくさん使われるようになることを期待します。

ヘルスケア分野では、県の地場産業である繊維や眼鏡の技術が応用できる分野であり、多くの企業が開発に取り組んでいます。その中から事例を二つ紹介します。

一つ目は、繊維と電子技術を掛け合わせたスマートテキスタイルです。これは電気を通す布にセンサなどを搭載することにより、心電図など体の状態を計測し、その時の健康状態を知らせることで運動不足の解消や病気の早期発見などに役立つと期待されています。

二つ目は、福井大学が開発した超小型のプロジェクター(光学エンジン)を活用して県内眼鏡企業と開発したスマートグラスです。目の前の風景を見ながら光学エンジンから投影した情報も同時に見ることができます。一つ目のスマートテキスタイルと組み合わせることで、例えば、シヨギング中に身体情報を見ながらペースを調整するといったこ

とが可能となります。

AI・IoT・ロボット分野では、当センター内に「ふくいロボット・テクニカルセンター」を開設し、県内企業のロボットやIoTの導入を支援しています。現在は工場での導入が中心ですが、将来は生活の中にもどんどん広がっていくと考えられています。

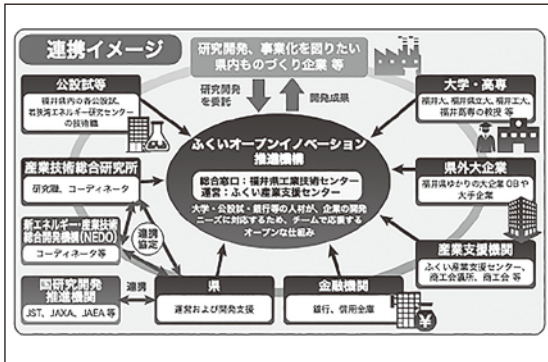
エネルギー分野では、太陽光で発電できる布の開発を行っています。この布をカーテンにすれば、日中発電した電気で夜になると自動的にカーテンが閉まるスマートハウスなども可能となります。将来は快適で消費エネルギーゼロの建物につながると期待しています。

当センターではこれらの他にも県内企業に役立つ様々な研究を行っています。そして、企業への技術移転の先にある皆様の暮らしが良くなるような製品の実現に向け、これからも新たな産業の創出を目指し、新しい研究など継続して挑戦していただけるよう努力してまいります。

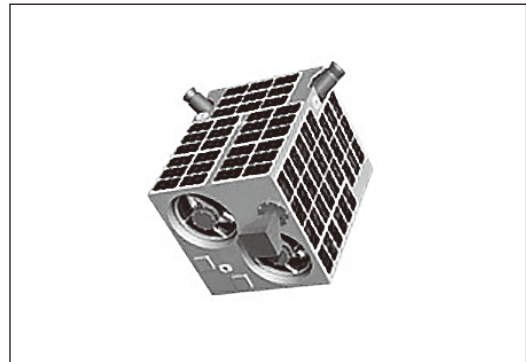
講師略歴……後藤 基浩(ごとう もとひろ)

福井県産業労働部 副部長(工業技術)兼福井県工業技術センター 所長。ふくいオープンイノベーション推進機構 ディレクター。

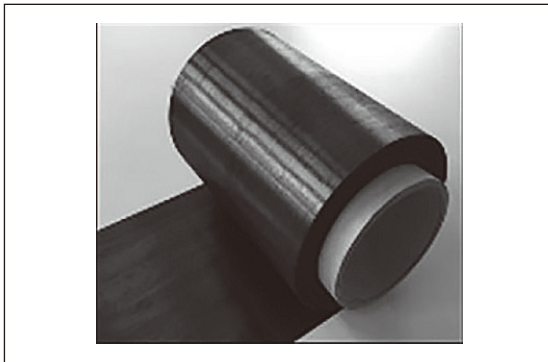
昭和61年同志社大学工学部卒業後、福井県工業技術センターに勤務。マイコンを活用した繊維機械等の制御技術や生産設備自動化技術の開発、技術指導に従事した。平成9年からはものづくりの高度化、迅速化のため、3Dプリンターや3次元設計を活用した技術開発に従事し、3D研究会を立ち上げて技術普及を行った。



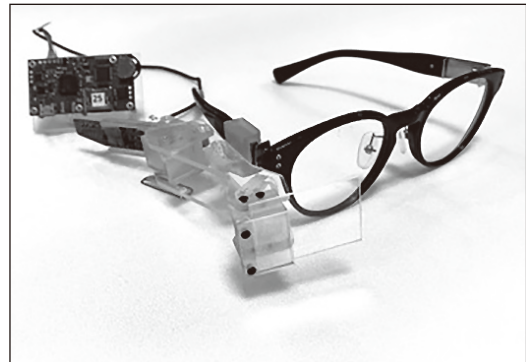
ふくいオープンイノベーション推進機構概要図



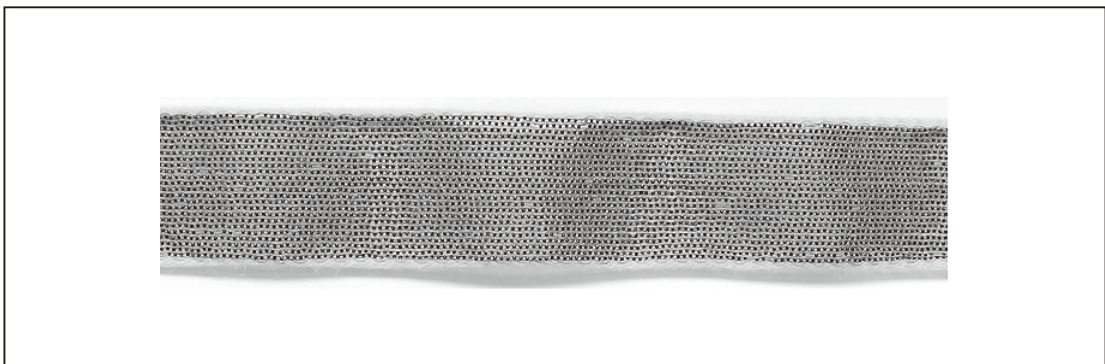
福井県民衛星「すいせん」



炭素繊維シート



光学エンジンを搭載したスマートグラス



太陽光で発電できる布

■十月二十三日放送（第三十回）

ボランティアで町おこし活動

NPO法人細呂木地区創成会

代表理事・会長

酒井 敏 雄

JRの芦原温泉駅から金沢寄りに1駅移動すると「細呂木」という無人駅があります。跨線橋を渡り、駅舎を通り抜けると正面に「らくーざ」と表記された木製格子の付いた建物があります。「細・呂・木」の文字をモチーフにしたものです。ここが私達「NPO法人細呂木地区創成会」の活動拠点「細呂木ふれあいセンター」です。

ギャラリーと図書館を兼ねたカフェと地元の農産物や手芸品を扱う売店があり、今年から「カレーとそば」を提供する食堂が併設され、地元民を中心に年間約4千人が利用しています。運営は会員42名の本会であり、支えるのはサポーターと称する女性スタッフ22名です。火曜日〜土曜日、10時から16時までの営業です。



細呂木駅は明治30年（1897）

に北陸本線開通に合せ開設されたもので、現在は無人駅ですが昭和31年には年間約25万人が利用していたと「細呂木村史」に記載されています。北陸本線開業に際し

駅前区域開発と共に沿線道路の整備に、当時の細呂木村の熱心な取り組みがありました。呉服、自転車、電器、文房具、豆腐、魚、料理屋等が立ち並び、吉崎御坊へのバスが往来し、滝瓦の積み出し、福井や金沢方面への通勤通学等、賑わいのあった駅でした。自動車による移動が多くなり、人口減少もあり平成25年には年間利用者は2.9万人まで減少し、お酒屋さんとたばこ屋さんがあるだけのさびれた駅前になっていました。

私達が「細呂木地区創成会」を設立したのは平成26年11月でした。前年6月に、細呂木地区区長会は市議会任期に合せ取り組む第1次重点施策（H25・7〜29・6）を制定しましたが、区長会を構成する19行政区の大半の区長任期は1年で、長期的な課題解決の取組みには継続性に難点があります。また、会議体であり事業体ではありません。そこで、7項目中の長期的な課題である2項目の「北陸新幹線開通後の通勤通学の利便性確保」と「北潟湖東岸地区の開発・誘客策」に取り組むために、区長の経験者を募り30名で本会を設立しました。当地区の中心である細呂木駅前賑わいを復活することを目指し、スタートしました。先ず、最初に取り組んだのは駅前のトイレや駐車場及びここを通る県道の清掃でした。きれいな環境でお客様をお迎えすることから始めようということでした。

次に取り組んだのは人が集まれる場所の確保です。細呂木駅は無人駅で待合室に暖冷房も無く、駅前にはバスやタクシー、コンビニや喫茶店もありません。無いものは造るしかありません。JA細呂木支店跡にはATMが置かれていましたが平成27年6月に廃止し、翌28年に建物を解体す

るといふ情報を入手したので、早速、譲渡交渉に着手しました。また、福井県の「福井ふるさと茶屋整備支援事業」の創設を聞き、応募しました。絶大な支援者の出現と二つの幸運に恵まれ、織田信長の「楽市楽座」に習い、市民が気楽に集まれる「らくーざ」の開設が叶いました。この場所は前にJRの駅、裏に市営の無料駐車場が在り、友人との語り、昼食や読書、同窓会や各種団体の役員会、絵画や写真の文化交流等、多様な利用者で賑わっています。

道路清掃は市道吉崎線と県道29号線の3路線に拡大され、徐々に景観が改善されています。景観保全では荒れた竹藪の再生を目指し、竹を切り「門松づくり」を始めたことです。孟宗竹での門松は小学校やこども園、公民館や駐在所、駅や郵便局等の公共施設に寄贈し、駅前通りの年末年始を飾る風物詩になってきました。真竹使用の「ミニ門松づくり」は小学生や市民との体験会として定着してきました。一般に販売した門松の収益は、翌年の活動資金として使います。それらは年明けに回収し「どんど焼き」として新たな地域の祭りにしました。その灰は花壇の肥料に利用しています。

細呂木地区には、たたら製鉄遺跡、南北朝時代の板碑、戦国時代の神宮寺城跡、江戸時代が多賀谷左近三経公墓所等の史跡が多くあり、それらの保存や顕彰活動をするボランティア組織があります。それらを観光客誘致につなげるように、平成30年に細呂木駅周辺の散策MAPを制作し、観光ガイドチームを創設しました。令和3年から「福井の秘境・宮谷石切り場跡」が注目され、ガイド活動も忙しくなってきました。現在は、越前国主・朝倉氏の加賀一向一

揆との戦いの最前線基地だった「神宮寺城跡」の来春デビューを目指し準備中です。

細呂木地区には他にも幾つものボランティア組織があり、道路清掃や花壇・植栽の管理活動をしています。高齢化と人口減少の進む農村地区も駅前に市民が集まり、史跡案内の看板が立ち、観光客で賑わうと自然に人々に笑顔がこぼれ、明るく元気になります。現役時代の経験を活かしたもののづくり、「集落を超えた連携と活動」は新たな郷土愛を生み、観光客との語らいは明るい未来を予想させ、ボランティアの熱気が増幅されます。地域のために働き、地域によって活かされている自分を見つけた時、現役時代とは異なる価値観と出会い、地域づくり、まちづくりの大切さを痛感します。元気な街が人々を活かします。人の出会いを多くすることが、街の肥やしとなります。

これからも、誘い合い、語り合いながら、隣の街とも連携しながら街づくりに汗を流したいと思います。

講師略歴……酒井 敏雄(さかい としお)

1949年生まれ、あわら市出身。1971年に福井大学工学部卒業し、酒井産業(株)(現旭化成テクノプラス(株))入社。1995年取締役、1998年常務取締役に就任し、繊維製品や樹脂製品の事業部長を担当、2008年退職。同年、シコー(株)の取締役、翌年常務取締役に就任し、LED製品やガス検知器、セラミックヒーターの開発、製造を担当、2012年退職。

2013年から7年間、柿原区長。その間、細呂木地区区長会の会長を3回、副会長を4回担当し、細呂木地区の課題に取り組み始めた。2013年から多賀谷左近三経公奉賛会、フルーツラインキーパーズ、細呂木地区創成会、川口城址保存会、たたら製鉄遺跡保存会、金津まちなか創成会、神宮寺城跡保存会等のボランティア組織の設立に参画し、遺跡保存や「まちづくり」を推進している。

■十月三十日放送（第三十一回）

世界の幸せ調査結果から見えてくる 地域づくりのポイント

福井県立大学 地域経済研究所

准教授

高野 翔

幸せ・ウェルビーイングとは

世界が新型コロナウイルス感染症の影響に翻弄される中、人類の進むべき発展の在り方を、今一度立ち止まり考える時を迎えており、人の幸福・健康・福祉などを広範に包含する「ウェルビーイング (Well-being)」という概念・尺度に注目があつまってきている。

ウェルビーイングは、WHOによる健康の定義において「健康とは、身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな状態」と表現されて以来、心理学、経済学を始めとする様々な学術分野において議論がなされ、「身体的・精神的・社会的に良好な状態にある実感する幸せ」として、世界各国で調査研究が進んでいる。その中でも、国連が2012

年から発刊してきている世界幸福度報告書は、世界140ヶ国以上を対象に、世界で最も影響力のある調査の1つである。



世界の幸せ・ウェルビーイング調査が測っているもの

世界幸福度報告書では、「生活評価」と「感情」を人々の幸せ・ウェルビーイングを表すものとして測定している。一つ目の、生活評価とは、「ある人の生活またはその特定側面に対する自己評価」となり、具体的設問としては「梯子を想像してみてください。その梯子には、一番下は0、一番上には10と数字が付いています。一番上の10があなたにとって最も理想的な生活で、梯子の一番下の段が最悪の生活を表すと考えてください。あなたは、今現在、梯子のどの段に立っていると感じていますか?」となる。0から10までの11段階となり、回答した数字の平均値が国の「生活評価」の値となる。高ければ高いほど、回答者の幸せ・ウェルビーイング度は高いと見なしている。

もう一つの「感情」とは、「ある人の気持ちまたは情動状態、通常は特定の一時点を基準にして測る」であり、感情体験に注目する。尺度は、肯定的感情（幸せ／Happiness、笑顔／Laugh、喜び／Enjoyment）と否定的感情（心配／Worry、悲しみ／Sadness、怒り／Anger）の体験報告。肯定的感情の体験があるほど、また、否定的感情の体験が少ないほど、幸せ・ウェルビーイング度が高いと見なす。

ウェルビーイングの6つの要因

国連の調査では、人々の幸せ・ウェルビーイングの要因として6つを掲げている。その内の2つは、客観要因として「一人あたりのGDP」と「健康寿命」。どちらの指標とも、様々な場面で重宝されている指標である。残りの4つは、主観

要因。一人ひとりに実際に尋ねてはじめて得られる社会状況であり、「社会的関係性」「自己決定感」「寛容性」「信頼感」の4つとなる。

「社会的関係性」は、困ったときに頼れる人の有無。「自己決定感」は、人生の選択肢の幅と自己決定感の有無。「寛容性」は、寄付行為の有無。最後に、「信頼感」は、社会腐敗への認識から社会への信頼感を測り数値化を行っている。

国際ファンキングから読み取ることが出来る日本の課題

国連の世界幸福度報告書2021では、日本は「生活評価」において、56位。主要先進国の中で順位が低い。また、「感情」の結果を見ると、日本は、肯定的感情はランキングが低く、生活における幸せ、笑顔、喜びの体験報告は少ないということとなるが、否定的感情は15位と順位が相対的に高い。これは、心配、悲しみ、怒りという否定的感情が少ないという意味では、幸せ・ウェルビーイング度が高いと言っている。

加えて、6つの因子の国際ランキングも見てみると、日本は、客観要因である健康寿命は世界2位と高いが、主観要因である「社会的関係性」「自己決定感」「寛容性」は50位以下と低い。

なお、「寛容性」は、寄付の有無で測定されており、文化慣習の各国の違いに大きく影響される可能性があることに関しては留意が必要である。

少なくとも、主観要因である「社会的関係性」と「自己決定感」は、日本・福井が幸せな社会を実現していく上で欠かせない視点であることがわかる。

日本・福井の地域づくりに必要な着眼点

地域の暮らしの中で、人とつながり頼ることのできる「居場所」と言えるような、自分らしくほっと居られる社会的な関係・場を持つことができていくか。また、人生の各ステージにおいて、地域に選びたい選択肢があり、それを自己決定し選択することができる土壌があるか、それは仕事についても、学びについても、趣味等についても、生き方に関する多くの事象に通ずるものであるが、自分を表現したり活躍したりすることのできる「舞台」というものが地域に整っているか、ということに寄り添って見ていく必要がある。

「社会的関係性」と「自己決定感」を、地域の幸せ実感の道標となる重要な物差しの一つとし、地域づくりの観点からは、それらを育む「居場所と舞台」をまちにととのえていくこと。このことが、世界の幸せの調査から学びことのできる福井の地域づくりの大事なポイントと言える。

引用文献・高野翔(2022)「国連の世界幸福度報告書から読み取る日本・福井の地方創生への着眼点」『ふくい地域経済研究』Vol. 34

講師略歴……高野 翔(たかの しょう)

福井県福井市生まれ。2014-17年フータン王国にて幸せ・ウェルビーイングを起点にした国づくり支援を展開。2009-2020年JICAにて約20ヶ国のアジア・アフリカ地域の持続可能な国・地域づくりを担当。2020年より福井県立大学地域経済研究所准教授に着任。ウェルビーイングの概念を自治体政策に活用する研究とウェルビーイングを増進するまちづくり活動を実践。2021年12月に発足したウェルビーイング学会の理事を務める。

感想文のコーナー

このコーナーは、受講生の皆様から寄せられた感想文を紹介いたします。紙面の都合上、すべての感想文を紹介できないことをご容赦ください。

■八月七日放送(第十九回)

卒酒 飲まない日々

岩川 洋成 先生の感想文より

始めました。酒は味わうことが大切だと思います。辛口か甘口かと思いつながら盃を口元へ。日によっても味に違いがあります。

晩酌が一日で一番楽しいひと時、夕食は一時間です。飲酒は節度ある飲み方、度を越さない程合いが大事なのだと思います。

テストは②～⑩まで「いいえ」でした。酒好きの人は世の中に多くいますが、アルコール依存にならないよう気をつけて飲酒したいと思います。

▼藤沢 静子(百六十四番)

友人から夫が晩酌でいつまでもダラダラ飲んで困ると愚痴をよく聞きますが、私の夫は全くアルコール類がダメなのでよくわかりません。酒宴の席で少しくらい飲めたほうが社交的になれてうらやましいと思っっているくらいです。しかし、今日のお話をお聞きしてアルコール依存症の恐ろしさを痛感いたしました。

そして、アルコール依存症から脱却することは、とても意志が強くなければ難しい事なのだとわかりました。卒酒に成功されたこと、二度目の人生が開けたこと、なんて素晴らしいことでしょう。岩川様のお話がアルコール依存症気味の方々に伝わるといいなあと思います。「何事もほどほどに」がいいのかもですね。

▼山場 太郎(四番)

父が晩酌を毎日したので、私は父に愛められて酒を飲み

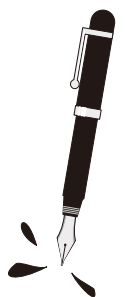
■八月十四日放送(第二十回)

福井県の鉄道を楽しむ

今尾 恵介 先生の感想文より

▼松村 政子(六十二番)

先生のお母様と同じ年代の私も山陰線で毎夏、祖母の田



舎へ行ききました。蒸気機関車の煙と煤で顔、鼻が真っ黒になったのを思い出します。鉄道の旅は、鈍行の車窓から見える田園や海岸線の風景が素晴らしく、心とみ、駅弁やお茶も買ったりにして心弾むものでした。横浜から福井へ鈍行に乗り15時間かけて、はるばるたどり着いた時の達成感には私にもわかります。2024年北陸新幹線が金沢―敦賀間開業で時間短縮になり便利になります。それはそれで鉄道の旅の楽しみが増えるのではないのでしょうか。

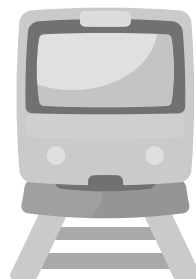
▼西尾 桂子（百七十七番）

子供の頃、1/25000の地図が正確に現地を表していることに感激した先生。子供だけの鉄道の旅など様々なご経験が現在のお仕事に繋がる。旅の楽しさと探求する心を語られるお話は面白く、お勤めの地理院地図を活用したいと思った。

子供時代には毎年のように横浜から祖母の御実家のある森田へ来ておられたとのことで、福井の土地名や駅名、それらの昔の様子を楽しくお聞きした。福井鉄道とえちぜん鉄道については、地方の私鉄が厳しい中で、相互乗り入れ等福井は工夫していると言われる。

また、県の建物（サンドーム、県立音楽堂）や大型スーパー前に駅を造り、様々な人々の利便を考慮しているが、これは全国が学びべきだと。実際、車に乗らない私は、これらの駅をとても重宝している。

私は、孫の家へ行くときも福鉄電車に乗る。車窓からは麦秋の黄金の波や、霧の深い秋の朝の墨絵のような山の景色などが美しく眺められる。孫たちと出かけるのも福鉄だ。駅で電車を待つ彼女たちは、新型車両「フクラム」が来てほしいと強く願う。それは大人の私も同じ。お出かけの楽しさが倍増するからである。



■八月二十一日放送（第二十一回）

民族楽器の音色で世界を感じよう

堀 建一 先生の感想文より

▼大下 敏雄（二百二十九番）

正月の楽しみの一つにニューイヤークンサートの生中継番組がある。ウインナーワルツ、ポルカ、ギャロップなどいろんな楽曲が演奏される時、オーケストラの最後部でいろいろな音で音を奏でているのが楽しく、このコンサートを楽しむとなった。音の出る物がすべて楽器になっている。最初の笛は息を吹きかけて火を起すことから偶然が生まれたというお話を聞いて面白いなと思った。

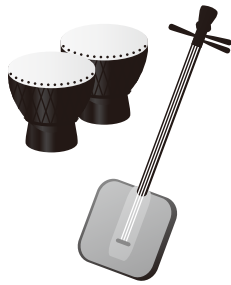
耳から脳へ、いろんな音がハーモニーとなって伝達され、感動を得ることができる。音階はどの人種にも備わっていること、素晴らしいことだと思つた。

▼森忠 陽子（二百三十一番）

今朝は珍しい、いろいろな民族楽器の独特な音色を聴かせていただき有り難うございました。

世界の人々は言葉がわからなくても音楽があれば通じ合えると聞いていますが、戦争が始まれば現実にはそうはいきません。

そんな中、先生は民族楽器を広めようとされていて、素晴らしいと思つきました。また、民族楽器を目にしたいと思つきました。



■八月二十八日放送（第二十二回）

地域のつながりをつくる

松島 孝治 先生の感想文より

▼木谷 直子（百八十四番）

一般企業勤めから椎茸栽培を中心とした農家として独立

され、農業をしつかりと身に付けられました。

さらに「ココフルー」では地域の特色を出した活動をされています。世代を超え越前町の産業を担う人達とつながり、教科書には載っていない豊富な知識や技術を共有しています。

こうした人とのつながりこそ、生きる醍醐味だと感じました。生きていく限り、一に挨拶、二にお礼、三に丁寧な接し方、この三つをいつも心に唱えいつでも応じられる人でありたいと思つきました。まずは家の中で実行（これが大変難しい）、外で自然にできるようになりたいと思つきます。

▼上屋敷 洋子（百八十番）

先生は、一般企業に勤めてから、祖父の代からの椎茸栽培を引き継ぎ、現在は幼い頃からの経験と先輩農家の方々からの教えを元に頑張っておられます。

また、世代を超えた交流や地域の結びつきは会話を通して信頼を得ることが大切だとおっしゃいました。私も地域でのつながりを大切にしていこうと思つきます。



文芸欄

俳句

父母のほっこり臭い刈田風

秋蒔きの種の袋に異国名

中野 利子(百三十一番)



蝸に急かされて下校の児らの声
野焼きする残る匂いも過疎の村

江守 和子(百二十一番)

新米を届けし里の想いあり

コスモスのトンネルくべり幼き日

小山 美令(二百四十二番)

短歌

お盆すぎはやくも樹々は幾枚の

葉を黄に染めて散らしはじめ

おぞましき事件の報道最後まで

聞くにしのびず席を立ちたり

杉下 信夫(八十八番)

川柳

蝶が好き芋虫も好きこの年で

逢って直ぐ覚えた「バイバイ」隣の児

PCR感謝くの夏の風邪

谷川 好枝(四番)

一乗台朝倉遺跡・川柳

新発掘のガラス工房跡注視

一人の地たたら関連遺跡何処

朝倉を時事通等に仕掛けたり

山下 博(七十四番)

発行所 (福)福井県社会福祉協議会

〒910-1852 福井市光陽 丁三十一番

電話 (0776) 241-4331
FAX (0776) 241-0041